

コンプライアンスを徹底し、安全で高品質なアスファルト合材を供給する。製造コストが高止まりする中、適正価格での販売を顧客に粘り強く求める。地域特性に応じた合材工場への設備投資を進め、省力化や脱炭素を加速するとともに、産業廃棄物処理事業の拡大も視野に入れる。

◇ 組織運営の方針は。

「社会から信頼され、顧客に選ばれる企業を目指す。コンプライアンスを最優先に、安全・高品質な合材の供給が製品事業本部の使命だ。利益創出には社員のエンゲージメント向上も欠かせない。明るく話しやすい職場をつくり、



「資材・人件費の高止まりで製造コストは上昇しているが、販売価格への転嫁は進んでいない。国内合材の製造量はピーク時の半分以上に落ち込み、下げ止まりの見通しも立たない。厳しい状況だが、生産性向上で対応する」

「中温化合材製造装置や高効率機械の導入を進め、灯油からガス化・廃食油などの代替燃料への転換も図る。札幌

生産性高め価値向上

新しい発想を生む土壌を整える。現場主義を重視し、各工場が抱える地域課題を把握し改善につなげたい」

「合材工場は人力作業が多く残っている。AIやロボットを導入し、省力化・自動化を段階的に進める。当社の東京青海合材工場・東京臨海リ

と沖縄では二酸化炭素(CO₂)を排出しない合材工場を整備した。こうした取り組みを全国に広げ、大成建設グループの長期環境目標『TAI SEI Green Target』

1982年佐賀県立鳥栖工業高校卒、大成道路(現大成ロテック)入社。製品事業本部副本部長、執行役員北海道支社長、執行役員製品事業本部長などを経て2025年6月から現職。福岡県出身、62歳。

(6月23日就任)

get 2050』に貢献していく」

――産廃処理事業の方針は。

「都内では再開発による解体需要が旺盛で、コンクリートとアスファルトの処理能力拡大が求められている。城南島リサイクルセンターでは戻りコンと残コンを直接受け入れる事業を展開中だ。ただ再生路盤材などリサイクル品の需要は低迷しているため、新規投資は需給バランスを見極めて判断する」。